

第3・4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

福岡市立小呂小中学校 指導者 力 恵利佳

1. 単元名 「さぐるう！小呂島のひみつ～郷土料理編～」

2. 単元の目標

- 郷土料理を見たり、調べたりすることを通して、小呂島の郷土料理に対する人々の思いや願い、大切さについて理解する。 (知識及び技能)
- 小呂島の方の話の聞いたり、郷土料理に関する資料を読んだりして、人々の小呂島に対する思いや願いを考え、表現物に表すことができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 小呂島の文化について進んで調べ、小呂島の郷土料理を残していくために自分には何ができるか考え、行動しようとするすることができる。 (学びに向かう力、人間性等)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、郷土料理というものがあることを知り、自分たちが住んでいる小呂島には、どのような郷土料理があるのかを調べる。調べる中で、家庭によって既に作られていないことを知り、このままでは小呂島の伝統文化である郷土料理が途絶える可能性を考え、未来に繋いでいこうとする方法を考え、自分の考えを発信する教材である。

小呂島は漁業が盛んな地域であることや離島であることから、魚に関する料理や長期保存ができる料理、自給自足で賄える料理が島では多く食べられてきた。しかし、近年の温暖化や利便性の向上から、以前から食べられてきた料理がなくなりつつある。今回は、様々ある小呂島の郷土料理から、子どもたちが興味を示した「あげもち」と「うおずし」を取り上げる。「あげもち」の起源は、あられが由来と言われており、島外へ買いに行くことが困難なため、作られていたと考えてられる。「うおずし」は、脂の乗った魚が取れたときに作るもので、家庭として今も親しまれている一方で、作っていない家庭もある。このように、今も継承されている小呂島の郷土料理があることについて学ぶことは、郷土の持続的な発展を願う子どもを育てる上で意義深い教材であると考えます。

(2) 児童観

本学級の子どもたちは、女兒2名の学級で、全校児童7名という少人数の学校の3・4年生として生活をしている。子どもたちはこれまでに、「小呂島のまちたんけん」という単元を通して、小呂島には、どのような建物や史跡があるかを地図にまとめ「さぐるう！小呂島のひみつ～いきいきサロン編～」という単元を通して、小呂島で暮らしているお年寄りと交流をし、お年寄りの元気なひみつを自分で考えポスターにまとめてきた。また、子どもたちの経験から、万年願や小呂山笠が伝統的に続いていることは知っているが、小呂島の料理に、伝統文化があることには、気付いておらず、それらを続けていこうとする未来へ目を向けるまでには至っていない。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、「小呂島のひみつ」としていきいきサロンに参加しているお年

寄りから元気のひみつを考えたことを想起させ、「人」に注目したことを気付かせる。「もの」の一例として、「郷土料理」を取り上げ、小呂島の郷土料理のイメージマップに表す。そこで自分たちは郷土料理についてほとんど知らないことから本単元への関心・意欲をもたせる。

次に、小呂島の郷土料理には、どのようなものがあるか、インターネットで調べたり、島民にインタビューをしたりする。インターネットでの情報では、限りがあるので、実際に作っている島民をゲストティーチャーとして招聘し、インタビューを行う。インタビューの内容を KJ 法を用いて整理したり、ピラミッドチャートを用いて紹介したい料理の優先度を決めたりして、小呂島の郷土料理の中で、島内・外の人に伝えたいものを選びせる。そのときに、伝統文化を続けていくためには、受け継いできた人がいることも捉えさせるようにする。

そして、再び島民をゲストティーチャーとして招聘し、受け継いでいきたい小呂島の郷土料理の材料や作り方をインタビューし、一緒に作ってみる。このときに、調理の大変さや味付けのこだわりなどを知り、人々の工夫や努力があることに気付かせる。

さらには、これらの活動を通して、小呂島には、受け継いでいきたい郷土料理があることを振り返らせ、そのよさを自分で考え表現物にまとめる。まとめた表現物をゲストティーチャーとして招聘した方や全校児童・生徒などの島内・外に発信活動を行い、これからも小呂島の伝統文化を受け継いでいくという意欲につなげたい。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性…小呂島には、他の地域とは違う味付けや作り方をしている郷土料理があること。

責任性…小呂島が持続発展していくためには、自分にできること範囲で行動していくことが大切であること。

・本学習で育てたい ESD の資質・能力

つながりを尊重する態度…地域の人の思いや自分の思いを受け止め、次の世代へ繋げていこうとする態度。

他者と協力する力…個人だけでできることには限りがあり、人と協力することも大切である。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正…地域の大人の知恵を借りたり、友だちとアイデアを出し合ったりすることで、自分だけではできなかった郷土料理を作り、そのよさを受け継いでいこうという思いに繋げる。

幸福感を重視する…小呂島の郷土料理を地域の人たちと一緒に作ることによって、みんなで楽しむことができる。

・達成が期待される SDGs

1 1 住み続けられるまちづくりを

1 4 海の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等	ウ 学びに向かう力、人間性等
① 小呂島の郷土料理について調べている。 ② インタビューしたり、調べたことを自分なりの方法で整理し、まとめている。	① 小呂島の郷土料理に携わる人の思いを考えている。 ② 写真や資料を選び、構図を考え、自分が考えるよさを効果的に伝えている。	① 小呂島の郷土料理のよさをまとめたものを、島内や島外の人に発信している。 ② 小呂島の一員として自分にできることを考え、行動している。

5. 単元の指導計画（全18時間）

配時	主な学習活動	・教師の支援 ○視点 ※能力、態度	○評価 ・備考
2	1 今まで学習してきたことを振り返り、これからの学習の見通しをもつ。 ・ 島探検をして、建物を調べた。 ・ いきいきサロンに行ってお年寄りの元気なひみつを考えた。	<ul style="list-style-type: none"> 本単元の見通しをもたせるために、既習学習を想起させる。 小呂島の郷土料理についての知識の変容をわかりやすくするために、今の段階で知っていることをイメージマップに表しておく。 小呂島と比較するために、他の離島の郷土料理を提示する。 	ア① (知・技)
	2 学習課題について予想し、学習計画を立てる。 ・ いきいきサロンのときは、インタビューに行ったな。 ・ 最後にポスター作った。	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで学習計画を立てることができるように、既習学習を想起する。 自分たちのまちのよさを考えるために、道徳「ふっかちゃんの町じまん」と関連付ける。 <p>○責任性（責任をもって行動する） ※つながりを尊重する態度</p>	ア① (知・技)

8	<p>1 インタビューの内容を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> こねくりは郷土料理かな。 一番作るのが大変な郷土料理ってなんだろう。 <p>2 ゲストティーチャーにインタビューを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が普段食べている料理には郷土料理もあったんだ。 <p>3 インタビューした内容をまとめ、分類する。</p> <p>4 インタビューしたことをもとに、自分たちで魅力を広める郷土料理を決める。</p> <p>5 ゲストティーチャーとともに、郷土料理を作る。</p> <p>6 自分たちで魅力を広める郷土料理の作り方やこだわりをインタビューし、まとめる。</p> <p>7 郷土料理「あげもち」を作ったことから、よさを考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループで共有しやすいように、インタビューしたい内容をドキュメントに書かせる。 インタビューを円滑に進めるために、事前にインタビューする項目を分けておく。 分類の方法を確認するために、3年国語「おすすめの一冊を決めよう」を想起させる。 思考を整理するためにK J法を用いる。 けがをしないように、教員を複数配置する。 思考を整理するために学習プリントK J法を用いる。 広めたいよさに優劣をつけやすくするために、ピラミッドチャートを用いる。 <p>○多様性（様々なものが関わりあっている） ※他者と協力する力</p>	<p>ア① (知・技)</p> <p>ア② (知・技)</p> <p>ア② (知・技)</p> <p>ア② (知・技)</p> <p>イ① (思判表)</p> <p>イ① (思判表)</p> <p>ウ① (主体的)</p>
---	---	--	---

4	<p>1 自分の考えを発信する方法や相手をもとに、レイアウトを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 島外の人に届けたいから、紙じゃなくて、タブレットで作ろう。 <p>2 自分の考えをまとめ、表現物を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アレンジレシピを考えて発信してみようかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えを整理するために、ICT を活用する。 ・ 発信する相手を意識して作成するように促す。 <p>○多様性（様々なものが関わりあっている）</p> <p>※つながりを尊重する態度</p>	<p>イ② (思判表)</p> <p>ウ① (主体的)</p>
4	<p>1 作成した表現物をもとに、校内で郷土料理のよさを発信する。</p> <p>2 校内で受けたアドバイスを元に改善する。</p> <p>3 ゲストティーチャーに向けてよさを発信する。</p> <p>4 表現物を島内に掲示したり、学校のHPに載せたり、島のSNSに載せたりした後、単元の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 閲覧数が思ったよりもいて、たくさんの人に見てもらえて嬉しい。 ・ 小呂島にも大切にしていきたい施設があるので、未来に残したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にできることを考えたことを発表するために、国語「調べて話そう、生活調査隊」「おすすめパンフレットを作ろう」と関連付けて学習を行う。 ・ 様々な人に自分の思いが伝わるようするために、資料を取捨選択する。 ・ 様々な人に自分の思いが伝わるようするために、資料を取捨選択する。 ・ 自分の考えの深まりを感じさせるために、単元の最初の考えを比較する。 <p>○責任性（責任をもって行動する）</p> <p>※他者と協力する力</p> <p>※つながりを尊重する態度</p>	<p>ウ② (主体的)</p> <p>イ② (思判表)</p> <p>ウ① (主体的)</p> <p>ウ① (主体的)</p>

6. 成果と課題

- 普段食べているものが小呂島の郷土料理であると知らずにいたので、他の地域と比べて地域によって、違う郷土料理があることを知ることができた。
- GTが身近な人だったことにより、小呂島の伝統料理に興味をもち、今ではなくったものもあると聞き、伝統料理続けていくためには、自分たちが受け継がないといけないんだという気持ちをもつことができた。
- キャンバを用いてKJ法を行ったため、相手の意見もすぐに共有され、自分にはない意見を取り入れやすかった。思考を段階に分けることができるピラミッドチャートでは、自分の伝えたい思いをより、強固なものにすることができた。
- 保護者と一緒に郷土料理を作ることが出来たので、子どもたちも喜び、積極的にお手伝いなど参加することができた。
- 小呂島の郷土料理では、環境要因でなくなっているものもあったので、地球の環境についても考えることができた。

- 小呂島の郷土料理は生ものが多く、学校現場では扱いづらいものが多く、今後教材化する場合、子どもたちの意見を反映させづらい部分がある。
- 保護者との兼ね合いがあるので、余裕をもって期間を設けて学習を行う必要がある。



現在の学年終了時に目指す姿

小呂島の魅力を考え、自分の住む地域に誇りと愛着をもち、一人一人が町づくりの主体であることに気付くとともに、多様な人たちと協働してよりよい社会のための行動を自ら起こすことができる。

島で暮らす高齢者は、魚を食べたり、自分たちで野菜を育てたりしているからかな。

この島が元気なひみつは何か考えていきたい。

総合的な学習の時間

「さぐろう！小呂島のひみつ～いきいきサロン編～」

小呂島のいきいきサロン(高齢者が集まる福祉の取り組み)を調べることによって、「小呂島の幸福」が島の人の温かさによって生み出されていることに気付き、自分たちも島民であり、「小呂島の幸福」を生み出す一員であることに気付かせたい。

社会科「わたしたちのまちはどんなまち？」(3年)

小呂島の地域の様子について、東西南北に分けて調べ、北に砲台跡、東、西海岸、南に渡船場や住宅があることを知り、小呂島に関する学習がしたいという意欲をもたせる。

小呂島ってほかにどんなものがあるんだろう。

総合的な学習の時間

「さぐろう！小呂島のひみつ～郷土料理編～」

○主に養いたい ESD の資質・能力

繋がりを尊重する力

地域の人の思いや自分の思いを受け止め、次の世代へ繋げていこうとする態度。

他者と協力する力

個人だけでできることには限りがあり、人と協力することも大切である。

○主に育てたい ESD の価値観

世代間の公正

地域の大人の知恵を借りたり、友だちとアイデアを出し合ったりすることで、自分だけではできなかった郷土料理を作り、そのよさを受け継いでいこうという思いに繋げる。

幸福感を重視する

小呂島の郷土料理を地域の人たちと一緒に作ることによって、みんなで楽しむことができる。

自分が伝統料理知らない誰かに伝えないとなくなってしまうから未来に伝えなければ。

国語科「未来につなぐ工芸品」

「工芸品のみりよくを伝えよう」(光村図書)4年

工芸品を職人が心を込めて作ったものを未来へ残すことの大切さを学び、伝統を繋いでいくには魅力を感じた側も未来に伝えていく必要性を感じたことから、一人一人が小呂島について自分事として考えたり、学んだことや考えたりしたことを発信することが持続可能な社会につながることを実感する。

道徳科「ふっかちゃんの町じまん」(東京書籍)

自分たちの住む町の好きなところを他の地域と比較することで、今まで当たり前食べてきたものや場所が自分たちの町じまんになるということを知り、小呂島の伝統と文化を発信したいという気持ちを育む。

小呂島の伝統を知らない人に伝えたい。